



レストラン“ロッシーニ”に迷い込んだ女優志願のブロンド娘。彼女がそこで出会ったのは、終らない恋愛ゲーム。

ディアーナ・フィルム 製作 監督：ヘルムート・ディートル 脚本：ヘルムート・ディートル + バトリック・ジュースキント

出演：ゲッツ・ダオルグ マリオ・アドルフ ハイナー・ロイターバッハ グートルン・ラントグレーベ ヴェロニカ・ファレス ヨアヒム・クロル

提供：丸紅 + M3エンタテインメント 配給：ピターズ・エンド 1996年・ドイツ映画・114min・2:2,35シネマスコープ・ドルビー

私を召し上がれ。

# Rossini oder die mörderische Frage, wer mit wem schließt

97年、ドイツで驚異的な観客動員を記録した、ウワサの“悦楽映画”、ついに登場!

ドイツ本国で345万人が駆けつけ、同年に公開された「フィフス・エレメント」「フル・モンティ」など欧米の並いるヒット作を追い越して、驚きの大ヒットを記録。



仕事と女、どちらも彼らを悩ませる…

そればかりか、ドイツのアカデミー賞に当たるドイツ映画賞では、『ビヨンド・サイレンス』を蹴落として作品賞金賞、監督賞、助演女優賞(メレト・ベッカー)、編集賞の計4部門を制覇! また、ヴァラエティ誌(97年6月9-15日号)では「この10年で最も洗練されたドイツ映画」と最大級の賛辞を浴びるなど、興行的にも批評的にも近年のドイツ映画最大の注目作が、遂に日本で公開される!! 『パンディツ』『ラン・ローラ・ラン(仮題)』などドイツ映画の公開がラッシュ、

新しいムーブメントが起こること必至の今年、とにかく必見の作品だ!!!



「白雪姫」、男たちの理想の女?

レストランで繰り広げられる、男と女の欲望の“饗宴”

ユンヘンにあるイタリアン・レストラン“ロッシーニ”。食欲を満たすだけではもの足りない、ここはさまざまな欲望に飢えた人々の集う場所だ。ペストセラーとなった小説「ローライ」を映画化しようという企画が持ち上がる中、4人の妻が浮気中の映画監督、詩人と愛人を取り合うプロデューサー、ネタをかぎり回り男をあさる女性ゴシップ記者、美人ウェイトレスに片思いを寄せる小説家etc...が、それぞれの悩みを抱え、夜ごとディナーにやって来る。展開されるのは、お互いを牽制し、騙し合ひ、自分の欲望を満たそうと、あらゆる手を使って行われる駆け引きのゲーム。

彼らを翻弄する美しいブロンド娘が登場し、人の良いオーナーまでもがその渦中に巻き込まれて、事態はますますエスカレートし、混乱を極めてゆく。だが、思いがけない結末が、そこにいる人々を待ち受けていた。夜は彼らを包みゆっくりと更けてゆく…。

誰が、誰と?

大人の関係を、大胆に、繊細に、エロティックに。

監督は長編は2作目ながら、製作者、

TVシリーズの監督として70年代からキャリアを積んできた俊英ヘルムート・ディートル。92年のデビュー作「シュントケーヒッターの賤作者たち」がアカデミー賞外国語映画部門にノミネートされ、第5回東京国際映画祭では脚本賞を受賞した才能を、存分に發揮している。また、共同脚本として「香水」「ゾマーさんのこと」で世界的有名なドイツの現代作家、パトリック・ジュースキントが参加。内容は大胆に、人物の描写にはユーモアと繊細さとを散りばめて、入り乱れる個性的な登場人物たちを縦横無尽に動かす二人の手腕は、見事というほかない。なかでもドラマを動かすことになる、ブロンド娘の清純さと妖艶さを合わせ持ったキャラクターは、エロティックな魅力に溢れている。キャストにはドイツ映画賞3度受賞のゲッツ・ゲオルゲ、『ブリキの太鼓』『フランチェスコ』のマリオ・アドルフ、『ふたりのロッテ』のハイナー・ロイター、バッハなどベテラン陣に、ヴェロニカ・ファレス、メレト・ベッカーら若手の実力派を配し、ドイツ映画界の名優たちが贊沢に顔を揃えている。

この映画をより美味しい召し上がっていただきたための“隠し味”たち

映画化の企画が持ち上がる「ローライ」は、ライン川のほとりの岩の上で歌を歌い、聞き惚れた船人を沈めてしまうという金髪の美しい妖精の物語。ハイネの詩とジルヒャーの曲で有名なこの物語は、ドイツでは詩、物語としてさまざまに語り継がれ、妖精は美的象徴ともされている。オーディションに“自称金髪美人”たちが大挙押しかけるのも、そんな伝説の主役を狙ってのこと。その勘違いぶり(?)も含めた「美女の競演」も見どころの一つ。



治療か、それとも秘密の…

また、日本では近年、グリム童話の初版本が翻訳され、翻案小説も倉橋由美子(「大人のための残酷童話」)、桐生操(「本当は恐ろしいグリム童話」)などの著作が次々と出版される一大ブームだが、この映画にも、そんなブームの元となったグリムの精神—教訓やセンチメンタリズムよりも、ブラックな毒と笑いで物語を語る現実風刺の精神—が息づいている。「ローライ」を射止めようと最後に現れる“本命”的ブロンド娘(ヴェロニカ・ファレス)が、「白雪姫」と呼ばれながらもいつも男たちを迷わせていく存在なのも、きっとそこに理由があるはずだ。



ニヨッキが取り持つ恋!?

今年はドイツ映画ブームの兆し!? いきなり真打ちが登場!!

5月8日(土)~21日(金)連日PM8:30~(終映10:30)

★前売鑑賞券¥1400(当日前一般¥1700の処)発売中!!

劇場窓口ほか市内各所のプレイガイド、びあ、ローソンなどでお求めください。

限定30枚

劇場窓口で前売券をお求めの方に特製ポストカードをプレゼント!!

心斎橋アメリカ村 BIG STEP 4F 06 (6282) 1460  
パラダイスシネマ